

花草木

【ジャカランダ】

ジャカランダ（学名：Jacaranda、科名/属名：ノウゼンカズラ科/キリモドキ属（ジャカランダ属）は、熱帯アメリカに50種が自生しています。

世界三大花「カエンボク」「ジャカランダ」「ホウオウボク」のうちの一つです。

観葉植物としてよく栽培されているのは、ボリビア、アルゼンチン原産のジャカランダ・ミモシフォリア（*J. mimosifolia*）です。常緑高木で、自生地では高さ15mに育ちます。葉は緑色で対生し、2回羽状複葉です。開花時期は5月から6月で青紫色のほか紫色や白色の花が咲きます。

ジャカランダの花言葉は「栄光」と「名誉」です。



市内の公園で咲いていたジャカランダの花です。

我が署のスタッフ 奈良森林管理事務所

早子 航（はやこ わたる）（令和4年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループで主に造林事業と車両業務を担当しています。造林事業では入札公告の作成から事業の完了に至るまでの一連の事務を行っています。車両業務については、点検・整備の発注、車両物品の購入など全般に渡って事務を行っています。その他にニホンジカ捕獲委託事業の一部事務等も担っています。いずれの業務においても規程や要領等を早く熟知し、ひとり立ちできるようにしていきたいです。

【職場の雰囲気は？】

ベテランから若手まで幅広い年齢層の方がいる中で、所内は笑いが絶えず、とても居心地のよい職場です。また、知識や経験の豊富な上司が多く、相談しやすい環境が整っています。業務にあたっては各担当が協力的に取り組んでいます。

【林野庁の魅力は？】

仕事については、室内事務ばかりではなく、山に行って体を動かす仕事もあり、様々な経験ができるところが魅力です。この仕事に就くまでは、山のことをよく知らなかったのですが、仕事で携わってからは、山の価値観など新たな発見ができました。



倒木処理に励んでいる様子

森林事務所等紹介

大野森林事務所（福井森林管理署）

首席森林官 北本 秀一（きたもと ひでかず）

大野森林事務所は福井県大野市城町に所在し、大野市に所在する国有林 18 団地約 16,400ha、官行造林地 11 団地約 930ha を管轄しています。

管内の特徴的な国有林としては、福井県内で唯一日本百名山に選定されている荒島岳^{あらしま}（標高 1,523 m）が所在する荒島国有林があります。



荒島岳頂上で撮影（一番左が筆者）

荒島岳は山容の美しさから「大野富士」とも呼ばれ、地元の人々に愛されています。近年は、中部縦貫道も整備され、人気の道の駅「越前おおの荒島の郷」も近く、県内外からの登山客等で賑わっています。

昨秋、荒島岳に登りましたが、頂上からの眺望は格別でした。皆様も一度お越しになられてはいかがでしょうか。

このほか、大野森林事務所の管轄する国有林の多くは岐阜県沿いの山間奥地に所在するため、山々は急峻で、近年は大雨による大規模な土砂崩れで国道の通行止めが続いて発生しています。

森林官の主な業務は、林野巡視や森林整備事業等の監督業務ですが、現場が遠いため当日の天候やクマの目撃情報を常に確認しつつ、安全業務に努めています。

今後も地域の方々に国有林で良かったと言われるよう適切な管理と事業運営に取り組んでまいりたいと思います。



山頂から望む景色



冬の荒島の遠景写真

シリーズ『国有林 最前線！』

民有林直轄治山事業の取り組み

～紀伊半島大水害から15年を迎えて～

和歌山森林管理署

平成23年、台風12号の記録的豪雨により、和歌山・奈良・三重県で甚大な被害をもたらした「紀伊半島大水害」が発生しました。和歌山森林管理署では、平成25年度から特に荒廃状況が複雑で復旧に高度な技術を要し、事業規模が大きい「本田垣内地区（大規模崩壊）」「上平治川地区（大規模崩壊）」「^{しものたに}下モ谷西側地区（大規模崩壊）」など6つの地域において、民有林直轄治山事業に着手し、また、平成29年度からは和歌山県の追加要望を受けた「上秋津地区（地すべり）」においても民有林直轄治山事業に取り組んでいます。

災害の復旧にあたっては、それぞれ災害規模が大きいことから、溪間工、山腹工、地下水排除工など多岐にわたる工法を組み合わせて施工しています。完成まで長い年月を要するものの、復旧への道のりを一步一步進めています。令和8年度現在、3つの地域で工事が完成して和歌山県へ引き渡しを行い、工事箇所は4地区を残すのみとなりました。

また、当署では復旧に合わせて、地域に密着したソフト対策を実施しています。令和8年5月29日には下モ谷西側地区の治山現場にて、地元小学生に治山事業の大切さと災害の恐ろしさを知ってもらうためのイベント「熊野の森再生植樹～紀伊半島大水害から15年を迎えて～」と題した植樹祭、防災学習を実施しました。災害から復興させるだけでなく、植樹や防災学習を通じて、土砂災害の恐ろしさや森林の大切さを子どもたちの記憶に少しでも残してもらい、仮に、再び災害発生の危険が生じた際には、命を守る行動につなげてもらえるよう、地域のこれからを見据えて取り組んでいます。イベントに参加した子供たちからは「すごく斜面が崩れていてびっくりしたし、紀伊半島大水害について勉強になった。ちゃんと育ててほしいと願いながら苗木を植えた」「植樹した木が大きくなってほしい」などの感想が寄せられました。

まだまだ時間はかかりますが、地元と共に安全・安心を届けるため、民有林直轄治山事業を進めて参ります。



復旧が進む 上平治川地区



復旧が進む 下モ谷西側地区



植樹をする生徒



植樹祭（参加者全員で記念撮影）